

近年のエイズ発生動向に基づく MSM 層(地方、若年層、滞日外国人)に関する研究 —外国国籍 MSM の動向と HIV 関連情報活用に関する調査—

研究代表者：市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科 特任教授）

研究協力者：高久道子(人間環境大学大学院看護学研究科)、岩木エリーザ(NGO・CRIATIVOS PROJECTO SAUDE)、金子典代(名古屋市立大学看護学部)、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)、岩橋恒太 (NPO 法人 akta)

研究要旨

近年のエイズ発生動向の特徴は、地方の MSM での HIV/AIDS 報告例の増加、若年層 MSM および外国国籍 MSM の報告例の増加が示されている。これらの MSM の特性、性行動および受検行動等の情報を収集し、その対策を検討することは今後の MSM における HIV 感染対策において重要と考える。

本研究では、多国籍化している訪日外国人、特に MSM について、多言語で日本国内での性経験、検査受検経験、HIV 関連情報の活用状況等を把握し、滞日外国人を対象とする啓発の方向性を探ることを目的とする。

1) 近年の外国国籍 HIV/AIDS 報告の特徴：エイズ発生動向調査における外国国籍感染者・患者の動向を分析し、外国国籍 MSM の動向を明らかにした。HIV/AIDS 報告数を MSM と MSM 以外に分類すると、MSM 以外では 2001 年以降減少が続いているが、MSM では徐々に増加しており、2014 年の報告数は、ほぼ同数となった。HIV 感染の報告が増えるなか国内感染例が過半数を占め、また報告地域は東京、大阪、愛知などの都市部が中心であった。

2) 外国国籍 MSM を対象としたインターネット調査：本研究では、先行研究で行った英語による質問紙調査を軸に、多言語によるインターネット調査システムを開発した。言語は日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の 7 か国語の調査が実施できるシステムを構築した。

愛知県内で毎月、外国国籍の LGBTQ を対象に開催されるクラブイベントと、滞日ブラジル人が多く集うクラブイベントでインターネット調査を実施した。有効回答は 96 件、回答者の属性は男性 66.7%、女性 30.2%、その他 3.1%であった。性経験を有する者は 76 人(79.2%)で、MSM 46.1%、MSM 以外男性 23.7%、女性 26.3%の 3 群に分類して分析を行った。

分析対象者の属性については、年齢層に有意な関連があり、24 歳以下が MSM 34.3%、MSM 以外男性 5.6%、女性 15.0%であった ($p=0.042$)。日本語能力は MSM が「読むこと」「話すこと」ともに「よくできる」との回答が 42.9%、48.6%と他の群より有意に高かった ($p=0.003$)。日本に来てから HIV や性感染症の検査を受けたいと思った経験については、MSM の方が他の群より高かった ($p<0.01$)。一方で、MSM に限らず MSM 以外男性と女性においても母国語で受けられる検査を希望していた (91.4%、72.2%、75.0%、 $p=0.137$)。生涯の HIV 検査受検経験は MSM 68.6%、MSM 以外男性 27.8%、女性 35.0%であった ($p=0.006$) 一方、日本での受検経験は 3 群間で有意差はなかった (66.7%、40.0%、57.1%、 $p=0.523$)。

過去 6 か月の性行動については、MSM で 97.1%、MSM 以外男性 94.4%、女性 80.0%で ($p=0.075$)、

必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった(p=0.014)。最後にセックスをした相手については、MSMはその場限りの相手42.9%の割合が最も高く、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人・パートナー、夫/妻が72.2%、75.5%であった(p=0.007)。

参加者の望む言語で回答が可能なインターネット調査システムの構築を行ったことで、滞日外国人を対象とするクラブイベント参加者から回答を得ることができ、MSM およびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。ここで開発できた調査システムを活用し、さらに滞日外国人層を拡大した調査が今後は必要となる。

A. 研究目的

近年のエイズ発生動向の特徴は、地方のMSMでのHIV/AIDS報告例の増加、若年層MSMおよび外国国籍MSMの報告例の増加が示されている。わが国の感染者・患者の大半を占めるMSMにおいて再び増加することなく減少に転じさせるためには、これらのMSM層への予防啓発の促進と共に、MSM全体への早期HIV検査と治療の推進が重要である。

滞日外国人では国内感染例が過半数を占めて増加している。これらのMSM層の特性、性行動および受検行動等の情報を収集し、その対策を検討することは今後のMSMにおけるHIV感染対策において重要と考える。

本研究では、多国籍化している訪日外国人、特にMSMについて、多言語で日本国内での性経験、検査受検経験、HIV関連情報の活用状況等を把握し、滞日外国人を対象とする啓発の方向性を探ることを目的とする。

B. 研究方法

エイズ発生動向調査における外国国籍感染者・患者の動向を分析し、外国国籍MSMの動向を明らかにした。

また、国内で実施されている滞日外国人対象のHIV関連の調査研究では、外国籍者の多くは日本語への対応が困難であることを示しており、このことから、本研究では母国語によるアンケートを可能とするための多言語に

よるインターネット質問紙調査のシステムを構築することとした(研究2年度)。なお、研究費軽減を図るため、前身の研究班で用いた外国語対応インターネット調査を改変し、調査項目については、国籍、日本国内での性経験、検査受検経験、HIV関連情報の活用状況等に関する質問項目を検討し、滞日外国人への支援活動を行っているCBOと共に内容や調査方法等について検討した。

言語は、最終的に、日本語、英語をベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語に翻訳しシステムを完成した。日本語から翻訳された各言語は2名のネイティブによる確認を行い、また翻訳者とは異なるネイティブ(研究者、外国人支援NGOスタッフ、大学院生など)による確認を加えて確定した。

(倫理面への配慮)

人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得たのちに調査を実施した(UHE-2016021)。

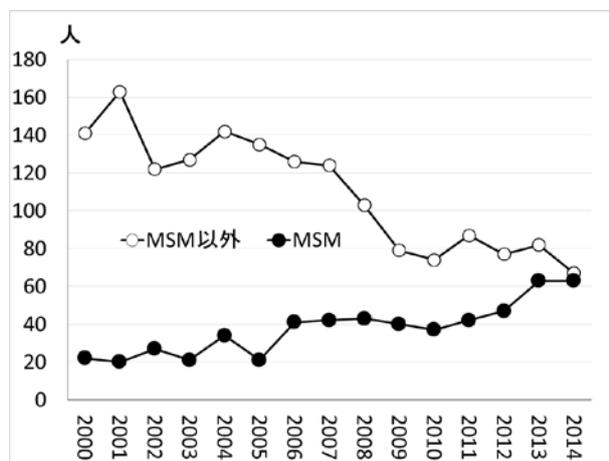
C. 研究結果

1) 近年の外国国籍HIV/AIDS報告の特徴

外国国籍のHIV感染者、AIDS患者の報告数の動向をみると、総数(HIV/AIDS報告数)は2001年の183件をピークに減少し、2010年は111件となった。しかしその後は124件、145件、130件と再び増加の兆しである。HIV/AIDS

報告数を MSM および MSM 以外に分類してみると、MSM 以外では 2001 年以降減少が続いているが、MSM では徐々に増加しており、2014 年の報告数は、MSM63 件、MSM 以外 67 件とほぼ同数となった(図 1)。MSM の HIV/AIDS 報告数のうち、増加しているのは HIV 感染者であり、国内感染例が過半数を占め、また報告地域は東京、大阪、愛知などの都市部が中心となっている。

図 1. 外国国籍 HIV 感染者・AIDS 患者報告数 -MSM と MSM 以外の年次推移-
(厚生労働省平成 26 年エイズ発生動向年報)



近年の外国国籍 HIV 陽性者の国籍について、1996-2002 年と 2008-2013 年を比較した研究が報告されている「外国人におけるエイズ予防指針の実効性を高めるための方策に関する研究¹⁾」によると、従来、外国人の HIV 症例の大半を占めていたタイ、ブラジル、ミャンマー、ペルー、ウガンダといった地域の出身者から、中国、フィリピン、インドネシア地域の出身者に変ってきている。すなわち、東アジア出身者の割合が増加し、その特徴は平均年齢が若く、比較的日本語能力が高く、保健所などの検査施設を利用しており、独身の男性であることから、比較的若年で日本語能力の高い MSM が多くを占めていると推定されていた。

2) 外国国籍 MSM を対象としたインターネッ

ト調査

日本語による外国国籍を対象とした質問紙調査は、回答が日本語能力に左右され、偏りが伴う調査結果となることが想定される。また、近年の訪日者の特徴として、多国籍化があげられており、英語圏に加え多言語による質問紙が必要となっている。そのため、外国国籍者を対象とした調査はあまり行われていない現状にある。

そこで、本研究では、先行研究で行った英語による質問紙調査を軸に、多言語によるインターネット調査システムを開発した。言語は、日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の 7 か国語の調査が実施できるシステムに改変した。

また、調査項目は、1) 基本属性、日本での生活(滞在期間や日本語能力など)、2) エイズや性感染症に関連したこと(知識、対話経験、検査行動など)、3) 性行動および予防行動、性感染症既往などとした。なお、性、セクシュアリティ、性行動の回答から MSM およびそれ以外に分類できる構成とした。

愛知県内で毎月、外国国籍の LGBTQ を対象に開催されるクラブイベントのオーガナイザーに調査について説明し協力の承諾を得て、2016年12月1日～2017年2月18日にアンケート調査を実施した。またブラジル国籍の商業施設オーナーより調査の承諾を得て、2017年2月にイベント参加者に調査を行った結果、およそ 150 人から有効回答 96 件を得た。回答者の属性は男性 66.7%、女性 30.2%、その他 3.1%であった(表 1)。性経験を有する者は 76 人(79.2%)で、MSM46.1%、MSM 以外男性 23.7%、女性 26.3%で、この 3 群に分類して分析を行った。

分析対象者(n=73)の属性について、年齢層に有意な関連があり、24 歳以下が MSM34.3%、MSM 以外男性 5.6%、女性 15.0%であった(p=0.042)(表 2)。日本語能力については MSM 群が「読む

こと」「話すこと」とともに「よくできる」と回答している割合が42.9%、48.6%と他の群より有意に高かった($p=0.041$ 、 $p=0.003$)。

滞日外国人の商業施設やSNSの利用については、MSMが他の群よりもクラブ・パーティ($p=0.001$)や銭湯・サウナ($p=0.003$)の利用が高く、異性愛者も利用する出会い系アプリTinderにおいても利用割合が有意に高かった($p<0.01$) (表3)。ゲイ用の出会い系アプリ利用は、Grindrが74.3%と最も高く、9monsters 62.9%、Jack'd 60.0%、Hornet 54.3%であった。

日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと思ったことがあると回答した者が、MSMで88.6%と、他の群(33.3%、40.0%)より有意に高かった($p<0.01$)。一方で、MSMに限らずMSM以外男性と女性において母国語で受けられるHIVや性感染症の検査を高い割合で希望していた(91.4%、72.2%、75.0%、 $p=0.137$)。外国人またはゲイ・バイセクシュアル男性に向けたHIV/エイズや性感染症の予防啓発を行っているNGO団体認知はともに低かった($p=0.530$ 、 $p=0.233$)。

生涯のHIV検査受検経験はMSMが68.6%で、MSM以外男性(27.8%)、女性(35.0%)と比べて有意に高かった($p=0.006$)一方で、日本での受検経験は3群間で差はなかった(66.7%、40.0%、57.1%、 $p=0.523$) (表4)。

過去6か月の性行動については、MSMで97.1%、MSM以外男性94.4%、女性80.0%で($p=0.075$)、必ずコンドームを使用したのがMSM44.1%、MSM以外男性23.5%、女性56.3%であった($p=0.014$) (表5)。過去6か月間で最後にセックスをした相手は、MSMはその場限りの相手44.1%で、MSM以外男性と女性は彼氏や恋人・パートナー、夫/妻と回答していた(70.6%、87.5%、 $p=0.003$)。その時にコンドームを使ったと回答したのはMSM61.8%、MSM以外男性29.4%、女性50.0%であった($p=0.124$)。

D. 考察

日本語、英語によるシステムをベースに、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、中国語(台湾)の7か国語の調査が実施できるインターネット調査システムを構築した。滞日外国人を対象とするクラブイベントの参加者から回答を得ることができ、MSMおよびそれ以外の回答者別の行動調査を可能とした。

訪日外国人が急増している今日、在日の外国人の多様化が今後も進むことが予想される。MSMにおいても、台湾などのアジア圏に移動する日本人MSM、また訪日する外国人MSMがあり、アジアでのMSMにおけるHIV感染拡大が問題となっていることから、これら国際的な移動に伴うHIV感染拡大への対応が重要となっている。

増加する訪日外国人、滞日外国人を対象とした行動調査は、わが国およびアジア地域のMSMにおけるHIV感染の動向を探り、かつ対策の方向性を評価する上で重要である。ここで開発できた調査システムを活用し、さらに滞日外国人層を拡大した調査が今後は必要となる。また、台湾、ベトナム、中国などの地域とも共同調査が可能となる。

E. 結論

外国国籍MSMのHIV感染者報告が増加している状況を明らかにし、外国国籍MSMの性行動、受検行動、HIV関連情報の認知等を把握することを目的に、英語圏、南米、タイ、中国、韓国等の外国国籍MSMを対象とする多言語によるインターネット調査システムを構築した。

F. 発表論文等

1. 論文

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一:

成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態-2009 年調査と 2012 年調査の比較-, 日本エイズ学会誌, 19 (1), 16 - 23, 2016.

- 2) 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太: MSM(Men who have sex with men)における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. 化学療法の領域 32 (5) : 1029-1038, 2016
- 3) Nigel Sherriff¹, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley and Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/dav096: November 11, 2015
- 4) 高久道子, 市川誠一, 金子典代: 愛知県に在住するスペイン語圏の南米地域出身者におけるスペイン語対応の医療機関に関する情報行動と関連する要因, 日本公衆衛生学会誌, 62(11), 684-693, 2015
- 5) 岡慎一, 市川誠一, 松下修三: HIV 検査と感染予防(座談会), HIV 感染症と AIDS の治療, 6 (2), 4-11, 2015

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし

参考文献

- 1) 仲尾唯治: 「外国人におけるエイズ予防指針の実効性を高めるための方策に関する研究 (研究代表者仲尾唯治)」, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業平成 26 年度総括・分担研究報告書, 21-36, 2015.

表1 多言語調査 アンケート回答者の属性 (N=96)

	n	%
回答言語		
日本語	13	13.5
英語	19	19.8
スペイン語	2	2.1
ポルトガル語	61	63.5
中国語 (台湾)	1	1.0
年齢層		
24歳以下	23	24.0
25-39歳	53	55.2
40歳以上	20	20.8
性別		
男性	64	66.7
女性	29	30.2
その他	3	3.1
地域別出身		
東ヨーロッパ	1	1.0
アジア	15	15.6
北米	6	6.2
オセアニア	3	3.1
中南米	71	74.0
来日目的		
日本で生まれ育った	11	11.5
留学、研修など	2	2.1
仕事で	73	76.0
旅行で	1	1.0
その他	9	9.4
滞在期間		
1か月～3か月	6	6.3
3か月～1年	4	4.2
1年～5年	17	17.7
5年～10年	10	10.4
10年以上	59	61.5
滞在/在住の都道府県		
愛知県	82	85.4
三重県	4	4.2
静岡県	4	4.2
福島県	1	1.0
岐阜県	5	5.2
あなたは日本語を読むことができますか？		
よくできる	24	25.0
まあまあできる	52	54.2
まったくできない	20	20.8
あなたは日本語を話すことができますか？		
よくできる	25	26.0
まあまあできる	58	60.4
まったくできない	13	13.5
性経験分類		
MSM	35	36.5
異性間男性	18	18.8
異性間女性	14	14.6
同性間女性	1	1.0
バイ女性	5	5.2
その他	3	3.1
セックス未経験と回答した者	20	20.8

表2 滞日外国人の属性 (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
回答言語	日本語	8	22.9%	0	0.0%	1	5.0%	9	12.3%	0.021
	英語	10	28.6%	1	5.6%	5	25.0%	16	21.9%	
	スペイン語	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	1	1.4%	
	ポルトガル語	17	48.6%	16	88.9%	13	65.0%	46	63.0%	
	中国語 (台湾)	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	1	1.4%	
年齢層	24歳以下	12	34.3%	1	5.6%	3	15.0%	16	21.9%	0.042
	25-39歳	20	57.1%	11	61.1%	11	55.0%	42	57.5%	
	40歳以上	3	8.6%	6	33.3%	6	30.0%	15	20.5%	
就労状況	正規雇用で働いている	28	80.0%	18	100.0%	15	75.0%	61	83.6%	0.068
	パートタイムで働いている	6	17.1%	0	0.0%	2	10.0%	8	11.0%	
	働いていない	1	2.9%	0	0.0%	3	15.0%	4	5.5%	
婚姻状況	結婚していない	34	97.1%	10	55.6%	9	45.0%	53	72.6%	<0.01
	結婚していないが、一緒に生活しているパートナーがいる	0	0.0%	4	22.2%	4	20.0%	8	11.0%	
	結婚している	1	2.9%	4	22.2%	7	35.0%	12	16.4%	
来日目的	日本で生まれ育った	8	22.9%	0	0.0%	1	5.0%	9	12.3%	0.093
	留学、研修など	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	
	仕事で	23	65.7%	18	100.0%	17	85.0%	58	79.5%	
	その他	3	8.6%	0	0.0%	2	10.0%	5	6.8%	
滞日期間	1カ月～3カ月	1	2.9%	1	5.6%	0	0.0%	2	2.7%	0.780
	3カ月～1年	1	2.9%	0	0.0%	2	10.0%	3	4.1%	
	1年～5年	7	20.0%	4	22.2%	2	10.0%	13	17.8%	
	5年～10年	4	11.4%	2	11.1%	3	15.0%	9	12.3%	
	10年以上	22	62.9%	11	61.1%	13	65.0%	46	63.0%	
日本語を読むこと	よくできる	15	42.9%	2	11.1%	2	10.0%	19	26.0%	0.041
	まあまあできる	16	45.7%	13	72.2%	14	70.0%	43	58.9%	
	まったくできない	4	11.4%	3	16.7%	4	20.0%	11	15.1%	
日本語を話すこと	よくできる	17	48.6%	1	5.6%	2	10.0%	20	27.4%	0.003
	まあまあできる	14	40.0%	15	83.3%	16	80.0%	45	61.6%	
	まったくできない	4	11.4%	2	11.1%	2	10.0%	8	11.0%	

表3 滞日外国人の商業施設やSNSの利用、HIV/エイズに関する情報について (MSMとMSM以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
商業施設やSNSの利用について (複数回答)	バー	32	91.4%	14	77.8%	13	65.0%	59	80.8%	0.053
	クラブ・パーティ	33	94.3%	9	50.0%	15	75.0%	57	78.1%	0.001
	銭湯・サウナ	21	60.0%	2	11.1%	9	45.0%	32	43.8%	0.003
	Tinder	17	48.6%	1	5.6%	2	10.0%	20	27.4%	0.000
	Grindr	26	74.3%	1	5.6%	0	0.0%	27	37.0%	0.000
	Jack'd	21	60.0%	1	5.6%	0	0.0%	22	30.1%	0.000
	9 monsters	22	62.9%	1	5.6%	0	0.0%	23	31.5%	0.000
	SCRUFF	7	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	9.6%	0.015
	Hornet	19	54.3%	2	11.1%	1	5.0%	22	30.1%	0.000
	BODY RUSH	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.577
	KO-MENS TV	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.1%	0.183
	BIG-MEN	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	どれもない	0	0.0%	1	5.6%	1	5.0%	2	2.7%	0.386
日本で、HIV/エイズに関する情報を得たこと	ある	22	62.9%	7	38.9%	7	35.0%	36	49.3%	0.082
	ない	13	37.1%	11	61.1%	13	65.0%	37	50.7%	
日本に来てからHIV/エイズや性感染症のことで相談 したいと思ったこと	ある	23	65.7%	6	33.3%	9	45.0%	38	52.1%	0.063
	ない	12	34.3%	12	66.7%	11	55.0%	35	47.9%	
日本に来てからHIVや性感染症の検査を受けたいと 思ったこと	ある	31	88.6%	6	33.3%	8	40.0%	45	61.6%	0.000
	ない	4	11.4%	12	66.7%	12	60.0%	28	38.4%	
母国語で受けられるHIVや性感染症の検査があっ たら	受けたいと思う	32	91.4%	13	72.2%	15	75.0%	60	82.2%	0.137
	受けたいと思わない	3	8.6%	5	27.8%	5	25.0%	13	17.8%	
日本で保健所でHIV検査を無料・匿名で受けられ ること	知っている	21	60.0%	6	33.3%	8	40.0%	35	47.9%	0.130
	知らない	14	40.0%	12	66.7%	12	60.0%	38	52.1%	
外国人に向けたHIV/エイズや性感染症の予防啓 発を行っているNGO団体	知っている	8	22.9%	2	11.1%	3	15.0%	13	17.8%	0.530
	知らない	27	77.1%	16	88.9%	17	85.0%	60	82.2%	
ゲイ・バイセクシュアル男性に向けたHIV/エイズや性 感染症の予防啓発を行っているNGO団体	知っている	10	28.6%	3	16.7%	2	10.0%	15	20.5%	0.233
	知らない	25	71.4%	15	83.3%	18	90.0%	58	79.5%	

表 4 滞日外国人の HIV/AIDS についての対話経験、身近感、HIV 検査行動について (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)		P値
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
過去 6ヵ月間に、HIV/エイズについて (複数回答)	家族と話した	8	22.9%	5	27.8%	4	20.0%	17	23.3%	0.849
	友人・知人と話した	26	74.3%	6	33.3%	5	25.0%	37	50.7%	0.000
	彼氏・恋人と話した	9	25.7%	2	11.1%	3	15.0%	14	19.2%	0.378
	誰とも話したことはない	7	20.0%	7	38.9%	9	45.0%	23	31.5%	0.117
友人・知人など身近な人で HIV に感染している人	知っている	13	37.1%	2	11.1%	4	20.0%	19	26.0%	0.161
	知らない	17	48.6%	11	61.1%	14	70.0%	42	57.5%	
	わからない	5	14.3%	5	27.8%	2	10.0%	12	16.4%	
これまでに HIV 検査を受けたこと	ある	24	68.6%	5	27.8%	7	35.0%	36	49.3%	0.006
	ない	11	31.4%	13	72.2%	13	65.0%	37	50.7%	
		(n=24)		(n=5)		(n=7)		(n=36)		
HIV 検査を最後に受けたのはいつ?	1年以内に受けた	12	50.0%	2	40.0%	1	14.3%	15	41.7%	0.240
	1年以上前に受けた	12	50.0%	3	60.0%	6	85.7%	21	58.3%	
日本で HIV 検査を受けたこと	ある	16	66.7%	2	40.0%	4	57.1%	22	61.1%	0.523
	ない	8	33.3%	3	60.0%	3	42.9%	14	38.9%	
		(n=16)		(n=2)		(n=4)		(n=22)		
日本で HIV 検査を最後に受けたのはいつ?	1年以内に受けた	10	62.5%	1	50.0%	1	25.0%	12	54.5%	0.400
	1年以上前に受けた	6	37.5%	1	50.0%	3	75.0%	10	45.5%	
日本で HIV 検査を受けた場所 (複数回答)	病院・クリニック	8	50.0%	1	50.0%	3	75.0%	12	54.5%	0.662
	保健所	9	56.3%	1	50.0%	1	25.0%	11	50.0%	0.535
	郵送検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.822

表5 滞日外国人の性感染症の既往、性行動について (MSM と MSM 以外男性、女性別)

		外国籍						合計 (n=73)	P値	
		MSM (n=35)		MSM以外男性(n=18)		女性(n=20)				
		n	%	n	%	n	%			
これまでに性感染症にかかったこと	ある	6	17.1%	1	5.6%	1	5.0%	8	11.0%	0.267
	ない	29	82.9%	17	94.4%	19	95.0%	65	89.0%	
これまでにセックスした相手	異性のみ	0	0.0%	18	100.0%	14	70.0%	32	43.8%	0.000
	同性のみ	25	71.4%	0	0.0%	1	5.0%	26	35.6%	
	異性と同性	10	28.6%	0	0.0%	5	25.0%	15	20.5%	
過去6カ月間のセックス経験	ある	34	97.1%	17	94.4%	16	80.0%	67	91.8%	0.075
	ない	1	2.9%	1	5.6%	4	20.0%	6	8.2%	
		(n=34)		(n=17)		(n=16)		(n=67)		
過去6か月間のセックス時のコンドーム使用	必ず使った	15	44.1%	4	23.5%	9	56.3%	28	41.8%	0.014
	使うことが多かった	7	20.6%	5	29.4%	0	0.0%	12	17.9%	
	五分の割合で使った	8	23.5%	3	17.6%	0	0.0%	11	16.4%	
	使わないことが多かった	3	8.8%	2	11.8%	1	6.3%	6	9.0%	
	全く使わなかった	1	2.9%	3	17.6%	6	37.5%	10	14.9%	
過去6か月間で最後にセックスした相手	彼氏や恋人・パートナー・夫/妻	9	26.5%	12	70.6%	14	87.5%	35	52.2%	0.003
	セックスフレンド	8	23.5%	1	5.9%	1	6.3%	10	14.9%	
	その場限りの相手	15	44.1%	3	17.6%	1	6.3%	19	28.4%	
	その他	2	5.9%	1	5.9%	0	0.0%	3	4.5%	
過去6か月間で最後にセックスした時、コンドーム使用	使った	21	61.8%	5	29.4%	8	50.0%	34	50.7%	0.124
	使わなかった	10	29.4%	11	64.7%	8	50.0%	29	43.3%	
	覚えていない	3	8.8%	1	5.9%	0	0.0%	4	6.0%	